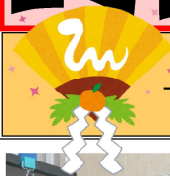


地域の将来像:住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

2025.1.15
第78号

明日の小山田を考える会の目的は、
住んで良かった・ずっと住み続け
たい・住み良い地域を創ること
です。そのためには、地域の皆さ
んの積極的な関わりが必要です。



一緒に、地域の将来を考えていく一年に



〈会長 浅沼正昭〉

2025年の新しい年が明けましたが、小山田地区の皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年は1月1日に発生した能登半島地震に始まり、国内各地における豪雨等自然災害の多発や、いわゆる「闇バイト」による多くの強盗事件等の発生、年末が近づいてからは、中学生死傷事件をはじめとする暗い事件や話題の多い年だったと感じております。世界的にみても、ウクライナ戦争、パレスチナ地域の紛争等がいまだに続いており、新しい年を率直に祝うことができないのが正直な気持ちです。地域の問題に目を向けると、基幹産業である農業においては、米の政府への売り渡し価格の上昇等一部明るい話題があったものの、今後一層進むことが確実な人口減少と各種の団体や農業等の担い手不足、少子化に伴って、今後小山田保育園の存続が困難となる可能性など、解決困難な課題が山積みしています。当会としましては、悲観してばかりもいられないことから、移住者の受け入れや、一度この地を離れた親族等が戻ってきやすい環境を整えることなどを中心に知恵を出し合い、住んでいる人々が少しでも元気になるような方策を編み出すことが求められています。人口減少も高齢化も進んではいますが、多くの高齢者の方々が元気に暮らしておられることから、地域の行事や会合により多く参加していただきながら、一緒に地域の将来を考えていただきたいと思います。小山田地域の皆様が、この1年を健康で平穩に過ごされますことを祈念するとともに、世界各地の戦争や紛争が収束に向かうことを願いながら年頭のあいさつといたします。

郷土のお菓子を次の世代へつなぐ



12月14日、前田の宮川一子さんに講師をお願いし、地域に伝わる郷土菓子「きりせんしょ」作り教室を開催しました。当日は小学生10名と保護者を含め、19名の皆さんが参加しました。もととなる生地は事前に作ってくれていましたが、当日実際に米粉と調味料の合わせ方など、順をおって説明をしてくれました。宮川さんが独自に考えた「技」もあり、私自身も大変勉強になりました。家で作るわけでもないのにね(^^;) その後、各自に配られた生地をこね(地元言葉で“しとねる”)、十分にこね上がったら、スポン・スポンとちぎれるようになるので(宮川レシピより)50グラムずつに分け、形を整え、竹串やスプーンで模様を付け、蒸し器に並べ20分蒸したら完成です。出来上がった「きりせんしょ」を満足感に満ちた笑みを浮かべながら食べていました。子どもたちから「楽しかった」、「上手に出来たので良かった」また、保護者の方からは「とても楽しく子どもたちと作ることが出来ました」、「とても良い教室でした。大変参考になりました」などの感想が寄せられました。



まゆ玉を使って干支の「巳」づくり



12月26日、花巻市南川原町の藤原淳子さんをお招きし、ハンドメイド交流事業「まゆ細工教室」を開催しました。当日はまゆ玉を使って2025年の干支の「巳(み)」づくりをしました。小学生10名ほか総勢19名の参加となりました。講師の藤原さんの説明を聞きながら、まゆ玉を貼り合わせ胴体を作り、その胴体に目や舌などの小さな部品を慎重に貼り付けて行きました。まゆ玉どうしが上手く張り合わず四苦八苦する場面もありました。また、部品が小さかったせいなのか、次第に声も小さくなり、慎重に、息をこらえながら作業を進めていました。2025年は十二支の「巳」と十干(じっかん)の「乙(きのと)」の乙巳(きのとみ)の年なそうです。この年は蛇が脱皮を何度も繰り返し成長していくという意味から「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年なそうですよ。



筆先に気持ちをこめて一文字一文字



11月8日を初回に5回開催で書道講座「美文字レッスン」を花巻市湯本の中島八重子さんをお招きし開催しました。今年は12名の方が受講し、熱心に指導を受けながら一文字一文字筆を走らせていました。初回となる11月8日は初めて参加する方もおり、書道の基本的な技法となる「点」、「角」、「はね」、「はらい」、「あがり」の筆の運び方について指導を受けました。また、「どんな文字も点からはじまり、点が発展して文字になります。」と話していました。講座の後半からは、白抜き材“わんぱう”という特殊材を使って白い文字が浮き出る「白抜き技法」に挑戦しました。わんぱうの粉を溶かした液で文字を書き、裏から墨を塗ることで文字が白く浮き出る技法で、初めての体験に皆さん大満足でした。



「命を助ける」ためらわずに応急手当を



当会の役員等の構成員が令和6年度新たになったことから、新しく就任された三役をはじめ、各専門部長及び副部長を対象に「普通救命講習会」を12月21日花巻中央消防署東和分署員を講師にお招きし開催しました。この講習会は振興センターに“AED”が設置されたことをきっかけに、令和4年度から当会主催の生涯学習等に携わる方々や高齢者支援に携わっている民生児童委員の方々を対象に受講をお願いしています。ついさっきまで元気になっていた人が、目の前で突然倒れ、心臓や呼吸が止まってしまった。そんな時、人の命を救うためには、いち早く、心肺蘇生やAEDによる「救命処置」が必要となります。現在、今回の受講者を含め25名の皆さんが修了証を受取っています。



トイレで倒れたことを想定した模擬訓練

押し花を散りばめたカレンダー



11月19日、南成島の佐野静子さんをお招きし、フラワー講座「押し花カレンダー」づくりの講座を開催しました。自筆の言葉の短冊や事前に佐野さんが書いていた言葉の短冊に押し花を散りばめ、ラミネートフィルム加工し、カレンダーの台紙の中央の窓に貼り付けて完成です。短冊の言葉も、花の種類、そして花の配置も自由に、オリジナルのカレンダーが出来上がりました。中には、窓枠に隠れてしまい、枠を拡げた参加者もありました。大胆な発想に“ビックリ”した場面でした。出来上がった押し花カレンダーを手に全員揃って笑顔で“パチリ” 皆さんは、花に囲まれ、笑顔で楽しい一年を過ごす事でしょう。



いつまでもピンピンと「にこにこサロン」

「にこにこサロン」の4回目と5回目をそれぞれ10月15日・11月12日に開催しました。4回目は花巻市長寿福祉課の晴山弥子さんをお招きし体組成測定と介護予防運動を行いました。体組成測定は身体を構成する組織(体組成)を測定し各部位ごとの筋肉量や水分量・基礎代謝量、内臓脂肪量など様々な測定ができ、毎年行っているので前年との比較に加え、測定値に合わせた指導をいただいています。介護予防運動では、転倒防止のための足の筋力アップや盆踊りのDVDに併せて身体を動かしてもらいました。今年最終となる5回目は、小山田駐在所の山口巡査部長による「特殊詐欺」の防止に関するお話と小山田保育園児による神楽やお遊戯、そして「香也の会」の舞踊鑑賞で今年のにこにこサロンを締めくくっていただきました。

◎第4回 (10月15日)
体組成測定と介護予防運動



◎第5回 (11月12日)
「特殊詐欺」防止の講話と神楽・お遊戯・舞踊



地域の人口減少について考える



◎東和作戦会議の
菅野和理事と大石文子理事

11月30日に小山田地区の人口減少について地区の皆さんと考えてみました。今回は「移住者の受け入れ」について、東和地域内の空き家バンク事業の窓口となっている東和作戦会議の菅野和理事と



浅沼正昭会長(左)と
コーディネーターの菊池事務局長

大石文子理事をお招きし、花巻市で取組んでいる事業や定住促進住宅取得等補助金についての説明をしていただきました。説明の中で、住宅の持ち主は家売りしたいのだが親戚の方から「実家を無くしてもらいたくない」、「時々管理に来るから売るな」など、登録までに至らない事例が多くあると話していました。親戚当事者が元気な時はいいでしょうが、次世代に引き継がれた時にはどうでしょうか？考えさせられる場面ですね。また、当日、すでに移住されている上浮田の佐々木哲哉さんと百ノ沢の阿部弘さんにご参加いただき、パネルディスカッション形式で、東和町に移住を決めた訳や、現在の生活、地域との関わり方について実体験を交えてお話をいただきました。話の中で「大規模な農地より中山間地的な農地で、そういう農地だから出来る農業の取り組みをしたい」、「シンプルな田舎暮らしのチャンスにチャレンジしたい」とも話していました。現在、佐々木さんはレンコンの栽培と地元中山間地域団体の役員、阿部さんはネギと小麦の栽培に取り組んでいます。



◎百ノ沢の
阿部 弘さん



◎上浮田の
佐々木哲哉さん

令和6年12月末現在

() : 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	54 (0)	78 (0)	63 (-1)	141 (-1)
第2行政区	148 (1)	186 (1)	185 (1)	371 (2)
第3行政区	152 (1)	186 (-1)	217 (1)	403 (0)
第4行政区	111 (0)	161 (-1)	155 (0)	316 (-1)
計	465 (2)	611 (-1)	620 (1)	1,231 (0)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



youtube.com
秋の景観集【4K】

小山田の「秋の景観集」
の動画をユー
チューブに掲
載しました。



～私のひとり言～ 先日NHK「みんなでプラス」で“地方を去る女性たち…本音を聞いてみた”と言う番組がありました。「やりたい仕事・働きがいのある仕事がない」、「働く場所がない」「楽しめる場所や施設がない」などの意見や、「国や自治体のほとんどが行う人口減少対策は、結婚や子育てを前提にした結婚・出産・子育て支援に力を入れ、女性や若者向けのサポートをほとんどやっていない」との意見も出されたそうです。人口流出が少なく、女性や若者が地元に残りたいという地域・環境づくりが最も必要なのではと考えるのですが。人口流出が少なくなれば自然に人口増加に繋がるのではないのでしょうかね!? (菊池)

発行：明日の小山田を考える会・電話：0198-42-2941
ホームページ：http://www.asuno-oyamada.jp
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp

